

あうる

Treasure every meeting as it's chance
to happen is only once in a life time.

北海道歴史秘話42

新天地として欧米文化を移入し、
急速に発展を遂げた北海道。
その陰には、アイヌ民族・囚人・
タコ労働者の犠牲があった。

アイヌ民族

寛政元（一七八九）年五月、場所請負商人の非道な行為に憤って蜂起したクナシリ・アイヌがノツカマップ（根室）で松前藩に鎮圧・処刑され、根室半島の砂浜を朱に染めた。以後、集団的抵抗に終止符を打たれ、北海道アイヌの哀しい歴史が始まる。

松前藩はアイヌ民族に対する支配を一層強め、昼夜の別なく労働力として酷使し、和人依存体制を強化。抵抗する力を奪っていった。アイヌ民族への虐待は、明治政府に引き継がれた。明治政府の移民政策の前にアイヌの人々は無防備であった。移民の乱獲で激減したエゾシカの狩猟も、毒矢を禁じられ、その手から遠ざかっていった。

明治三十二（一八九九）年に制定された「北海道旧土人保護法」は、保護という名目で狩猟と漁業を制限し、アイヌ民族とその土地を収奪の対象として再編成した。アイヌの人々が暮らしてきた大地と河川は国に編入され、木を切れば盗伐とこがめられ、サケを取れば密漁とされた。

囚人

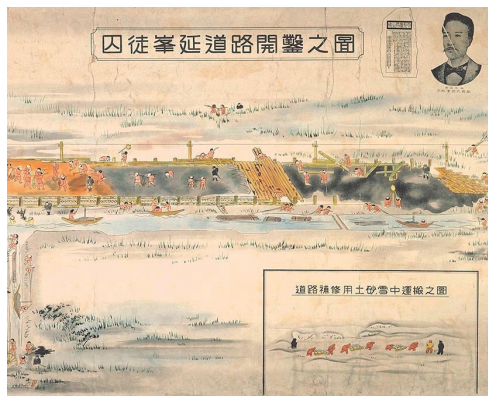
これより早い明治九（一八七六）年、開拓長官の黒田清隆は、前年に宗谷に移住した樺太アイヌ八四一名を対雁に強制移住させ、開拓労働に従事させようとして失敗した。以後、北海道の開発は、伊藤博文が提案した集治監の囚人に受け持たされた。

伊藤から開拓政策転換の指示を受けた太政官大書記官の金子堅太郎は、明治十八（一八八五）年の北海道三縣巡視復命書に

明治政府は近代化のために 多くの天然資源が眠る 北海道の開発を急務とした



添えられた「北海道巡視意見書」で、北海道開発の労働力として囚人の酷使を建言し



囚徒峯延道路開鑿之圖（北海道大学附属図書館所蔵）
樺戸監獄囚人による月形・峯延間の道路工事の状況。
寺本界雄『樺戸監獄史話』（昭和25）付録



金子堅太郎（国立国会図書館電子展示会「近代日本人の肖像」より）
後に日本法律学校（日本大学の前身）初代校長、農商務大臣、司法大臣を歴任した

た。その内容は、「囚人はあらゆる悪い悪人であるから、苦役をさせれば工事費が安上がりとなり、たとえ死んだとしても監獄費の節約になる」という乱暴なものであった。しかし、この復命書が国の方針となった。

明治十四年創設の樺戸（月形町）に始まり、空知（明治十五年・三笠市）、釧路（明治十八年・標茶町）、網走（明治二十四年）、十勝（明治二十八年・帯広市）の五集治監に収容された六千有余の囚人は、金子復命書以後、刑に服するとともに、開拓のムチを加えられるようになった。

最大の死者を出したのは明治二十四（一八九二）年の釧路集治監網走分監による北見道路（網走・北見峠間）工事で、死者は二二名に達した。工事の進捗を早くするため、松明をつけて夜中の十二時や一時頃まで、クタクタになるほど働かせたという。

この道路沿いにはたくさんのお土産がある

り、中から骨とともに鎖が出るので、地元の人たちはこれを「鎖塚」と呼んだ。

空知集治監は、開拓使直営の炭鉱である幌内炭鉱の採炭に、囚人を使役するために設置された監獄である。小樽までの石炭輸送鉄道と積出港湾設備まで整えた幌内炭鉱が、明治十四年に払い下げの対象となり、それが不正事件となり、明治十四年の政変を引き起こすに至った。

幌内炭鉱とそれに附属する鉄道・汽船の払い下げは、薩摩の政商・五代友厚に代わり、皇室・華族らも出資して創立した北海道炭礦鉄道会社（北炭）が受けたが、この会社には毎年千余人の囚人を貸与する契約がついていた。官営から北炭経営に変わると、囚人の負傷数は三倍にもなった。

幌内炭鉱の地底労働を拒否する囚人たちは集団交渉を始め、教誨師・典獄らも巻き込むと、渋る井上馨内相も明治二十七（一八九四）年いっばいで囚人の外役労働を廃止せざるをえない事態となった。

タコ労働者

囚人の強制労働を引き継いだのが、監獄部屋と呼ばれたタコ部屋で、労働者を宿舎に収容し、半強制的に働かせた。明治三十年代に始まる労働形態として、このタコ労働が北海道開発の主軸になった。

タコ部屋は明治二十三（一八九〇）年、北炭経営の石炭輸送鉄道室蘭線の工事で発生し、以来北海道の鉄道工事のすべてにタコ部屋制度が用いられた。豊富な地下資源と森林資源をめがけて敷設された国有鉄道は、北炭・三井・三菱・住友などの炭鉱資

本や王子・富士などの製紙資本を繁栄させた。

タコ労働の需要は、鉄道や独占資本以外に、明治四十三（一九一〇）年から実施された「北海道第一期拓殖計画」の治水・土地改良・道路・築港の土木事業まで及んだ。

タコ部屋は正期に最盛期を迎え、一日平均二万人以上のタコ（労働者）が働いた。

最低の労働条件下に置かれたタコ部屋より「監獄の方がまだましだ」と言いつて、監獄志願の殺傷事件さえ発生した。拘禁され十四時間以上も棒頭幹部に追い回され、病気になることもモッコで現場に運ばれ、死んでも葬式もせず、飯場近くに埋められた。

人権を無視されながら、最も困難な仕事を担ったアイヌ民族や囚人、そしてタコ部屋労働者たち。これらの人々の犠牲によって、北海道は開発されていったことを忘れてはならない。



網走監獄 休泊所（博物館網走監獄所蔵）
いわゆる「タコ部屋」の様式の原型となった。「棒頭」と呼ばれる監督者が労働者たちを監視し、過酷な労働へと駆り立てた

あうるの杜

特別養護老人ホームフローラルさつなえ
理事・施設長
高谷敦生さん

Interview

週刊「介護新聞」掲載
のコラムが全て収録された、
『道具七分に腕三分 介護は
心と言葉と行い』を出版する
高谷敦生さんの
あうるの杜です。

介護の敷居を下げないで…

なんかね、介護の仕事は楽しいよ、介護へおいでよ…って聞きたびに、『違うんだよね…』と思うわけ。(笑)介護業界は慢性的な人手不足でしょう。だから、あの手この手で介護の仕事のイメージアップに奔走しているんです。若い人たちに高齢者と並んでピースさせたりしてね。(笑)

確かに、介護という仕事は誰にでも始められます。でもね、誰もが続くかっていうと、そんな甘くないんです。介護は、「高齢者が好き」「介護が好き」だけでは続かない。そんな軟な仕事じゃないです。難しいですし、実際はもっともつと泥臭いんですよ。

だから、介護の仕事は楽しいよ、介護へおいでよ…なんて変な宣伝して、安易に敷居を下げてほしくないんです。(笑)

いつもやさしい…って難しい

この仕事に就く人はみんなやさ

介護はそんな やわ 軟な仕事 じゃない



B6判、227頁
中西出版より
8月5日刊行予定

しい人です。でも、やってみると、毎日毎日やさしくあり続けるって、こんなにも難しいものかと気づかれます。いつもやさしい…って簡単じゃない。

介護の現場には、人に寄り添い支え護る業(わざ)みたいなものをもっている職人(しごと)というか、玄人(くわい)肌の職員がいます。介護の達人(たじん)いや、介護の鉄人(てつじん)かな。(笑)

これって、三年や五年やったく



高谷 敦生
たかや あつお

1961年室蘭市生まれ。
社会福祉法人札幌明啓院 特別養護老人ホームフローラルさつなえ 理事・施設長。
「若い世代に介護の魅力を伝えたい」との熱き思いから、日常の介護や認知症ケアで感じたこと、入所者とその家族との出会いと別れ、看取りについてのエピソードを施設職員向けに発信し続けてきた。個性を尊重した支援に対する考え、介護理念と制度政策に精通した施設運営に多くの関係者が共感し、さらに魅力的な表現力で様々な人を引き込んで活躍している。
2018年 北海道社会福祉協議会会長表彰
(社会福祉施設職員功労表彰)
2022年 札幌市社会福祉功労者表彰

髪を切ってもらおうのだって、顔を剃ってもらおうのだってそう。自信なさげな顔と震える手でハサミや剃刀を近づけられたら困りますでしょ。(笑)

お金を奮発するなら、評判のシェフの料理を味わってみたいですし、家を建てるなら腕の立つ大工さんをお願いしたい。介護だって同じですよ。

だからね…、業界のイメージアップ

プより、介護の職人・達人たちの生き様や人物像をもっともつと紹介したらどうなの…と思うわけ。

(笑)

「大人になったら、あの人のようになりたい」「転職して、あの人と一緒に働きたい」。子供たちが若い人たちが憧れるプロフェッショナルの存在をたくさんの人に知ってもらわなきゃです。

聞けば、介護は親が子供になってほしくない職業の常連なんですって。悔しいじゃないですか。

(笑)

道具七分に腕三分

職人は、腕も大切だけれども、それ以上に道具を大事にする。職人とは、腕を磨く以上に道具を磨く(大切に使う)ものだ。道具七分に腕三分とは、そんな意味です。

カッコいい言葉ですよ。

だから…、そのままカッコいい本にしようと思ったのです。

表紙だけ見ても何の本かわからないでしょ。おっ！と思っ手取っていただけなのなら狙い通りです。(笑)

フォトグラファークATOMIさんに撮っていただいた写真が、八五のエピソードに彩りを添えてくれました。これがまたカッコいいんですよ。

この本は、介護に携わっている

人にも、そうでない人にも伝わるものがきつとあります。

コラムの中の魅力あふれる登場人物と小粋なKATOMIさんの写真から、五感が刺激されます。喜怒哀楽とか、人と人との関係性つまり人間模様がちりばめられていますから…。介護ってそういう仕事ですもの。(笑)

介添えして護ると書いて介護…。「やさしい心」「伝わる言葉」それと「実際の行い(行動)」…これが介護する私たちの道具です。この三つを、日々バランスよく調える(ととのえる・調整する)、これがかつても大切なんです。

簡単な仕事ではないですから、道具の手入れは欠かせません。

若い人たちの想い

介護という仕事の難しさを知ってもらいたい。奥ゆかしさを感じてもらいたい。ベテラン職員たちの熱き想いと魂のこもったかわりの先にたくさんステキなドラマがあることを伝えたい。

若い人たちから「介護は難しく奥が深いから挑戦したいんです…」と言われる職業になってもらいたい。

そんな想いが、どのページにも、表紙にも、帯にまでも目一杯詰まった本になったと思います。

「さりげなく遠回しに」

日本の社会では、はつきり物事を言うという角が立ちま

す。
世間では「そうあからさまに言うては身も蓋もない」とされ、概して遠回しの言い方のほうが穏やかで、たしなみがあるとされてきました。映画『男はつらいよ』シリーズの主人公・寅さんも、「それを言っちゃあ、おしまいよ!!」と言うのが口癖でした。

露骨な感じを避け、さりげなく遠回りに述べるテクニックが、日本語にはありますよね。「痛い目にあわせる」ことを「かわいがつてやる」などと、伝えたいことのむしろ反対の内容を口にして、場面や文脈との違和感から送り手の真意を感じ取らせたり、「鼻の穴が大きい」と言わず、角度を変えて「立派だ」と言ったり、多種多様な表現がみられます。

老廃物を排せつするための個室を指す日本語は、「雪隠」「厠」「後架」「御不浄」など、たくさんあります。ですが、そういうややストレートに感じる言葉を避けて、さらに「化粧室」とぼかし、それに当たる英語の「トイレット・ルーム」を縮めた「トイレ」という呼び名にすることによって、本来の「便所」という意味から次第に遠ざけていきました。

意味との関係がたどりにくくなれば、それだけ消臭効果が高まるというわけですね。

かつては、トイレに行くことを「高野山にお参りしてくる」と言っていた年配者もいました。「山」には草や木がたくさん生えているところから、その草木を「臭き」に通わせ、「高野山」は剃髪する場所なので、「髪を落とす」を「紙を落とす」に通わせているのだとか……。

思いがけない類音連想を働かせた、粋なシャレになっていますよね。

OWL INFORMATION

終戦直前、北海道に空襲があった

悲しみの夏

北海道空襲を忘れない
菊地慶一・著
定価:1,430円(税込)

釧路空襲を13歳で体験し、北海道空襲や戦後開拓を様々な形で書き続けてきた著者が、空襲や戦争の時代を改めて綴ったエッセー集。

1945年7月14・15日、北海道に大規模な空襲があり、2日間で3,000人近くの犠牲者を出しました。当時の記憶をはつきりと抱えている人が少なくなりつつある今、戦禍を今一度思い出し、伝え残さねばならないという、著者の焦熱と警告の思いが託された53編が収められています。



中西出版
A5判、154頁
2022年7月刊行

移ろう「葬送」の在り方を辿る

遠ざかる野辺送り

葬送の今昔事情
齊藤俊彦・著
定価:1,650円(税込)

遺族らが長い葬列を組んで亡骸を野末に葬る「野辺送り」。消えゆくその風習を文学や政策から読み解きながら、日本人の「葬送」の変遷を著者の住む北海道・江別を中心に考察した一冊。

北海道における葬送にはじまり、北方領土墓参や東日本大震災など突然の死による埋葬にも言及しつつ、小規模・簡素化が進み自然葬が目される現在にも触れており、変わりゆく葬送を誠実な筆致で書き記しています。



中西出版
四六判、318頁
2022年7月刊行

北海道図書館史を史料から構成

ほっかいどう図書館物語

明治・大正期
藤島隆・著
定価:1,980円(税込)

「北海道図書館史年表」を基礎として、明治・大正期における北海道の図書館の全貌を、できるだけ多くの史料にもとづいて考察。図書館員のみならず、北海道で図書館と関わる人々に役立ててほしい研究専門書です。

「できるだけ丁寧に考古学という表土採集をしていきたい」という巻頭の言葉どおり、一つひとつの事柄を参考文献に示した様々な資料から辿り、北海道の図書館史の流れをあらわにしています。



中西出版
A5判、223頁
2022年7月刊行

「私は私の信念によって、やったのだ」

改訂版 二笑亭綺譚

式場隆三郎、柳宗悦、谷口吉郎、五十嵐太郎・著
定価:3,300円(税込)

実在した奇妙な建築「二笑亭」とその主人の人生を詳らかに描き、昭和14年の初版以後、度々復刊された『二笑亭綺譚』。著者の式場隆三郎は精神科医であり、執筆活動や民藝運動でも知られる精力的な人物でした。

著者が熱望しながら未発表となり、後に失われた木村莊八の挿絵と資料の発見を機に、『決定版 二笑亭綺譚』の採録に挿絵・書下ろしを加えた新装版を制作。『二笑亭』が令和に甦ります。



中西出版
AB判、137頁
2022年5月刊行

「中間管理職」その極意とは？

社会人として学んでほしい

中間管理職の「下座学」
石塚正宏・著
定価:1,320円(税込)

「下座学」は、様々なトップ・マネジメントの下で働いてきた著者の人生哲学です。そこに至るまでの出会いや学びを、現役の中間管理職の皆さんや、いつかはその立場になる社会人の方々の人生の先輩からのエールとして6話にまとめました。

時にはトップの傍らの下座で、時にはリーダーとして部下を率いる中間管理職。「下座学」は実戦のなかで学び培った、一つの「身計」の集大成でもあります。



中西出版
四六判、151頁
2022年2月刊行

ふろしきの魅力を詰め込んだ絵本

いちまいの ふろしき

よこやまよしえ・さく・え
定価:1,100円(税込)

様々な結び方で色々な物を包みこむ日本の伝統「ふろしき」。その魅力を多くの人に分かりやすく伝えようと、かわいらしい絵本ができました。

生地や柄が好みで選べて、おしゃれで包装紙いらずのふろしき。絵本ではリズムカルな文章で基本的な包み方をはじめ、「もしものとき」として人の体を守る頭巾や防災シュズ、給水袋といった、防災士でもある著者が提唱する「防災風呂敷」としての活用方法も紹介されています。



中西出版
A5判、32頁
2021年12月刊行

